

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 27 年 9 月 21 日発行

第 21 号

発行人 校長 鈴木史良

自分への挑戦、持久走大会

—— 結果ではなく、そこにいたる過程に光る価値 ——

8月後半から1か月余り、どの学年も体育の授業のほとんどを持久走大会に向けた練習に費やしてきました。練習場所は、ウスター城の丘にあるブーフハルデン小道。アップダウンのある砂利道コースです。どの児童生徒も自分のめあてを立て、「持久走学習カード」に記録し、本番に向けて更なるレベルアップを図るべく、一生懸命頑張ってきたのです。

持久走大会を2日後に控えた日のこと、翌日の天気予報が雨模様のため、体育の時間に練習ができなくなると判断したある児童が体育担当の小林先生に“嘆願”しました。

「放課後、持久走の練習をしたいので、記録を計ってください！」その児童の気持ちを受け取った小林先生は、校長室に相談にやっ

てきました。放課後、記録を計りたいという児童がいるので、校外へ引率してよいかどうかと。よく話を聞くと、その児童は目標達成のためにとっても努力しており、本番前の最後のチャンスとして、走らせてやりたいとのこと。私は、安全面だけは十分注意するように、そして走った後の記録を教えてほしいと伝えて許可しました。

その児童の「持久走学習カード」を見せてもらいました。めあて欄には大きな文字で、「6分台に入る。坂では足はばをちぢめる。」とするされていました。8月に初めて走った記録は7分46秒。それが9月に入ると7分10秒となり、7日(月)には7分2秒をマーク。目標にあと2秒と迫ったのです。その気持ちを、“今日は新記録が出てうれしかったです。7分を切る辛さがわかりました。”と書いていました。

その後の記録は、7分4秒、7分5秒と伸び悩み、6分台にあと一步のところまで届いていなかったのです。翌日雨となっては走れなくなるので、今日こそ！ という気持ちが小林先生への“嘆願”になったのでしょうか。意欲をもった子どもはどんどん自分の力を伸ばします。大人たちの想像をはるかに超え、たくましく成長していくのです。

案の定、走り終えた児童と小林先生が職員室に飛び込んできました。疲れていたでしょうが、その表情は達成感と充実感に満ち、輝いていました。「6分50秒！ 新記録が出ました。」と元気のよい声が響きました。足踏みしていた記録が一気に伸び、7分の壁を越え、めあてが実現したのです。

ここに、持久走大会に向けた一人の児童の取り



開会式では全員が意気込みを発表



さあ、中学年がスタートしました！

組み例を紹介しましたが、今大会に向けて練習をがんばったすべての子どもたちが同じ気持ちをもっていただけだと思います。それぞれのめあて・目標実現のため、自分とのたたかいに臨みました。

そして迎えた本番の日

小雨模様の中、開会式と準備運動をすませ、午後2時10分、低学年の子どもたちがスタートしました。スタートダッシュがものすごかったです。1000mを力いっぱい走り切りました。続いて中学年の子どもたちが1400mを走り切りました。スタートから猛ダッシュで、丘の上へ消えていきました。高学年は2000mのコースです。みな自分のペースを守りながら、ベストの走りができました。最後は中学部、最長2800mのコースです。子どもたちは沿道での声援をエネルギーにすばらしい走りを披露してくれました。

閉会式では、この大会のスローガンを立派に達成した子どもたち全員に『完走賞』を授与しました。また、11年ぶりに学校記録を更新した2人の児童に新記録賞を授与し、みなでその健闘を称えました。

新記録 小2 4分58秒 Nさん / 小4 5分47秒 Kさん



最後まで全力を尽くす走りを見せる



閉会式後の記念撮影

大盛況の保護者バザー

9月12日(土)に保護者バザーが開催されました。全日制的保護者は『お餅』づくりと販売を担当しました。当日は晴天に恵まれ、『お餅』販売のテントにはお客様の長蛇の列が……。もち米を蒸す人、もちをつく人、まるめる人、販売する人、チームワークの良さが光りました。保護者の皆様にはたいへんな準備、当日の作業、片づけ等さまざまな面でご尽力いただき、感謝申し上げます。



にぎわう『お餅』売りの店頭

心に残る読み聞かせ

9月14日(月)、朝、保護者のSさんによる読み聞かせが図書室でおこなわれました。アーノルド・ローベル作/三木卓訳の『ふたりはいつも』、それに日本名作昔話から『ねずみ経』を読んでいただきました。子どもたちは読み手をしっかり見つめ、話に聞き入っていました。朝からすばらしい時間が流れていました。



読み聞かせに聞き入る子どもたち